

福井市北部地域学校規模適正化基本計画策定委員会について

1 設置目的

福井市学校規模適正化検討委員会の答申を受け、福井市北部地域における学校施設の整備方針に関する基本計画を取りまとめることを目的に、人口や土地利用に関する中長期展望を踏まえつつ、幅広い視点から、最適な方策について必要な事項を整理するため。

2 学校規模適正化委員会の答申内容（R2.5）

1 小学校の適正規模の考え方

- ◆多様な仲間と学び合い、高め合うには、各学年2～3学級が標準規模。
- ◆学年ごとに1学級を維持できる規模、各学年3～5学級も許容範囲。
- ・各学年6学級以上、全児童数が1,000人を超えることが予想される場合、施設活用等で支障をきたし、子どもたちが伸び伸びと学び生活することが困難になるため望ましくない。

2 中学校の適正規模の考え方

- ◆多様な人間関係の中での学び合いのために、各学年複数の学級編成が望ましい。
- ◆1学年1学級であっても20人程度であれば、きめ細やかな少人数教育が展開できるので許容範囲。

答申内容

- ・森田小学校については、速やかに2校への分割を進めることが必要。
- ・分割に際しては校区を見直し、通学時間や安全面について十分配慮すること。

3 森田地区における学校の現状

区画整理事業により、近年、人口と共に児童・生徒数が増加。

- 小学校：令和2年に1,000人を超え、今後も増加が見込まれる。
(令和3年度：1,049人)

※令和2年度に敷地内に仮設校舎を設置。令和3年度から特別教室や児童クラブを仮設校舎内に移転することで、校舎内に普通教室を確保。

- 中学校：令和元年度から急増し、将来的には既存校舎だけでは教室確保が難しい。
(令和3年度：398人)

※令和3年度に一部の特別教室等の改修を実施し、令和4年度からの普通教室を確保。

4 地元要望の内容

【森田地区】 自治会連合会、森田小PTA、森田中PTA、県議会議員、市議会議員

平成30年5月

(現状の問題点等)

- ・森田地区では、区画整理事業による人口増加とともに、森田小学校・森田中学校の児童生徒数も増加の一途
- ・森田小学校では遅くとも2年後（令和2年度）に児童数が1,000人を超え、今後、確実に教室数が不足。森田中学校においても同様に教室数の不足が見込まれる。

①現在の森田中学校を小学校とし、地区で2つの小学校とすること。

②中学校を別の場所に新築すること。

【森田・河合PTA】 森田小PTA、森田中PTA、河合小PTA

令和2年10月7日

(現状の問題点等)

- ・森田小学校の急激な児童数の増加に伴う施設の狭隘化、緊急時の避難対応や新しい生活様式の観点からの問題
- ・河合地区の中学生は、九頭竜川を越えて遠距離の灯明寺中学校に自転車で通学しており、荒天時の事故等が懸念

①九頭竜川以北の森田・河合両地区の中学生が通える中学校の新設

②現森田中学校をもう一つの小学校に改築

③本年11月までに両地区住民対象の説明会を実施

5 森田北東部土地区画整理事業での位置付け

■ 調査B報告書（平成4年）

〔公共施設の設計〕 学校教育施設

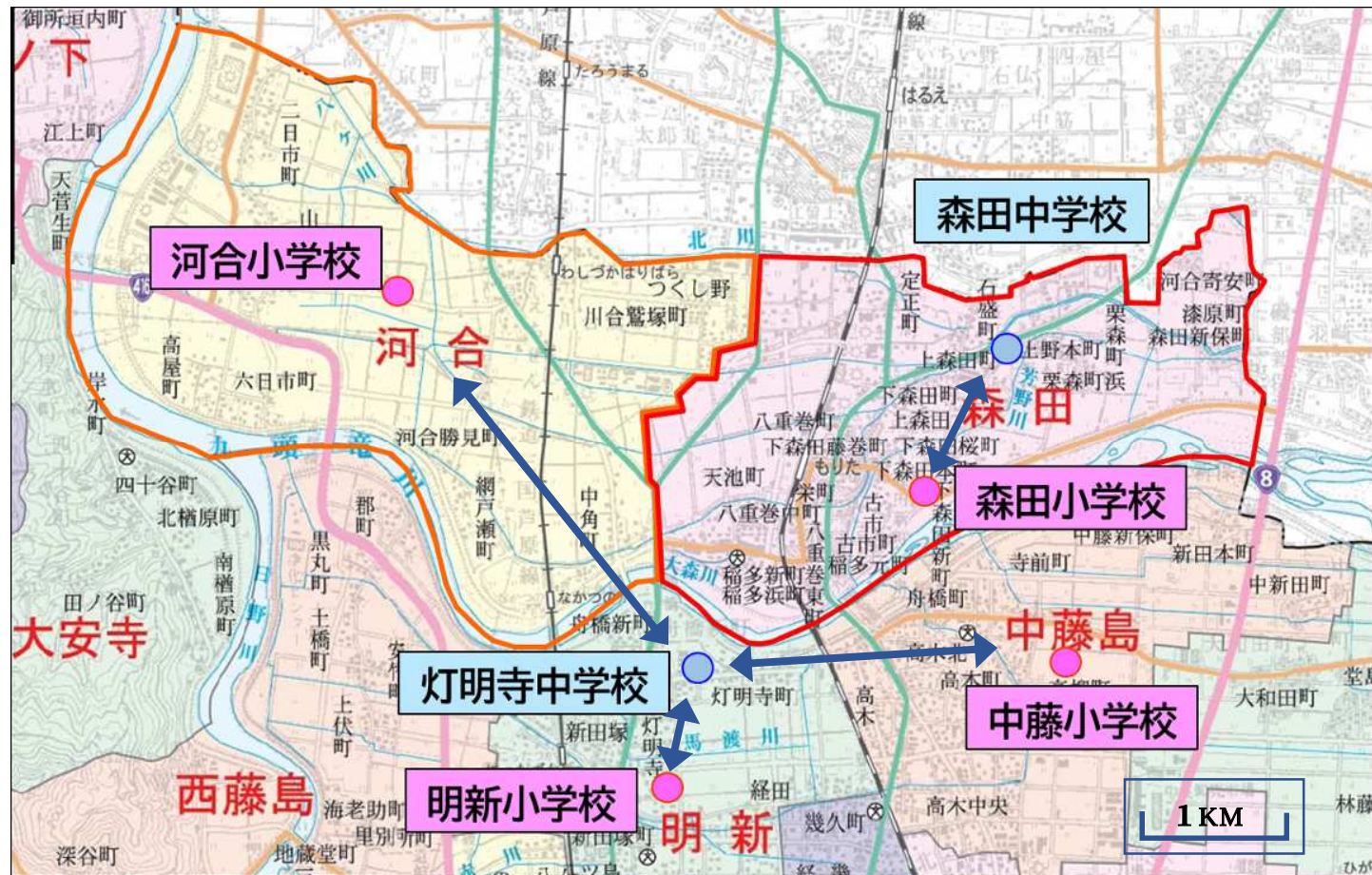
学校教育施設は、市街地の発展を図る上で重要な公益施設である。

特に、本地区の市街化に伴う人口増加を考慮して、将来の児童・生徒数に対応した適正な校舎敷地・運動場面積を確保することは、重要な課題である。

現在調査地区に含まれる学校区は、小学校では森田小学校、中学校では森田中学校がある。そこで、市街地の拡大に伴う今後の生徒数の増加に対応して、中学校の拡張を行い、九頭竜川以北全域の通学距離を考慮し、将来地区外西部への移転計画を進捗させ、その中学校跡地に小学校を新設する。

6 検討範囲（校区の現状）

- ・森田小学校 ⇒ 森田中学校
- ・河合小学校 ⇒ 灯明寺中学校
- ・明新小学校 ⇒ 灯明寺中学校
- ・中藤小学校 ⇒ 中藤島



7 策定委員会の検討スケジュール（予定）

■第1回（R3.7.20）

- ・現状整理（地区概況、施設現状、将来人口・児童数予測 等）
- ・具体的方策とアンケートの内容検討

■第2回（R3.9.上旬）

- ・アンケートの結果報告
- ・具体的方策の詳細検討（校区・通学路等の課題、事業費の積算 等）

■第3回（R3.9.下旬）

- ・中間報告（具体的方策の決定）

■第4回（R3.11 下旬）

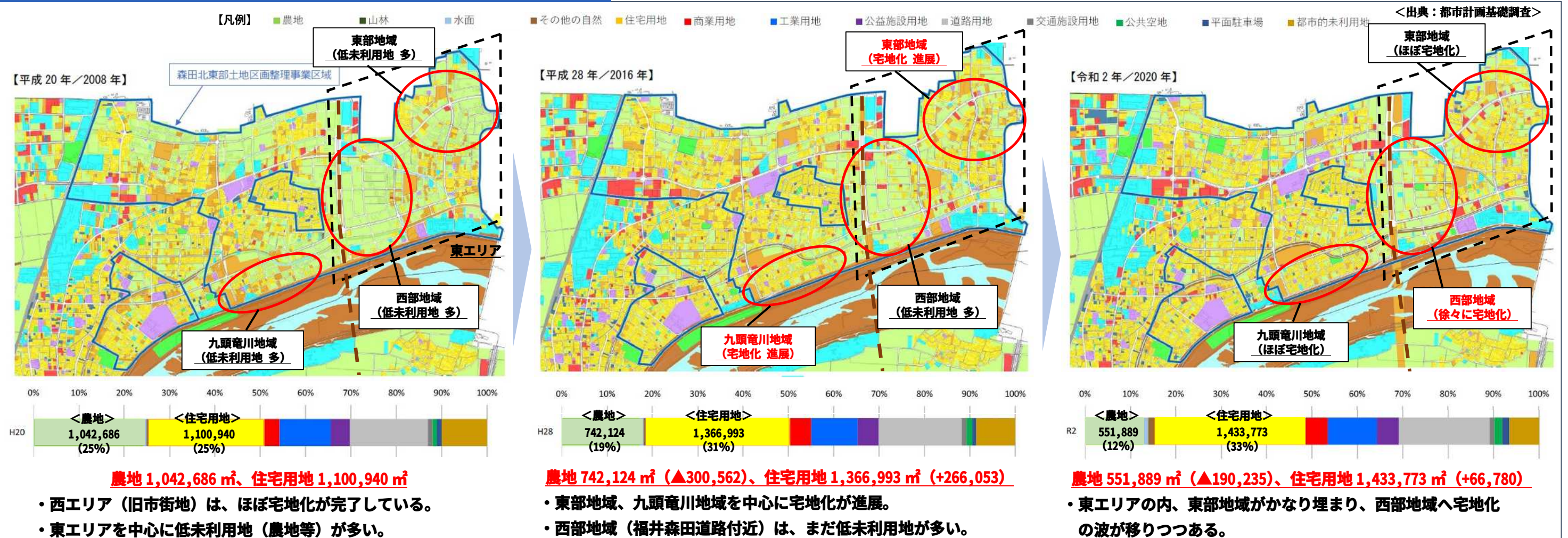
- ・基本計画の内容検討（施設、整備手法、事業費積算、スケジュール）

■第5回（R4.1 下旬）

- ・基本計画（案）について

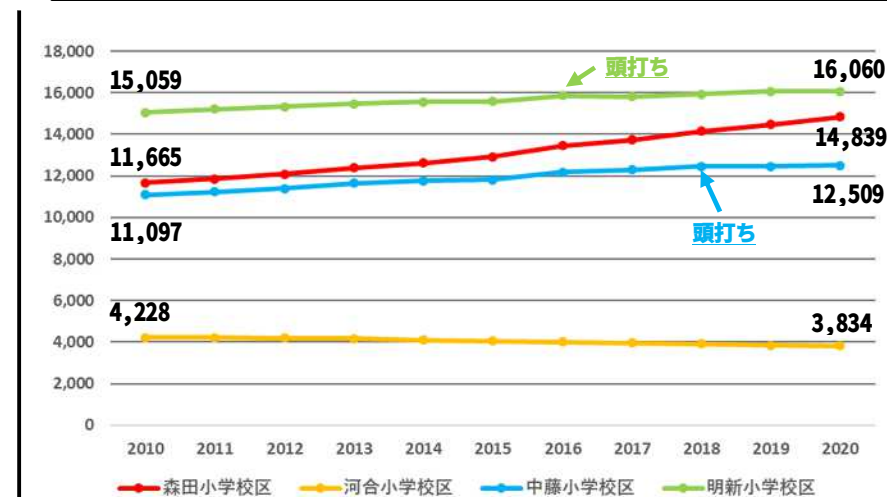
1. 北部地域の現況概要

1 土地利用の変遷（森田地区）

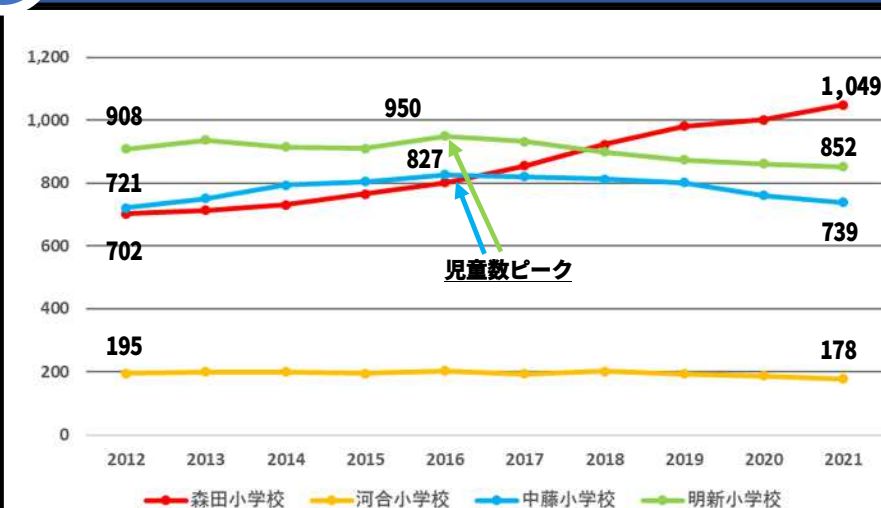


2 学校区別の人口・児童・生徒数の推移

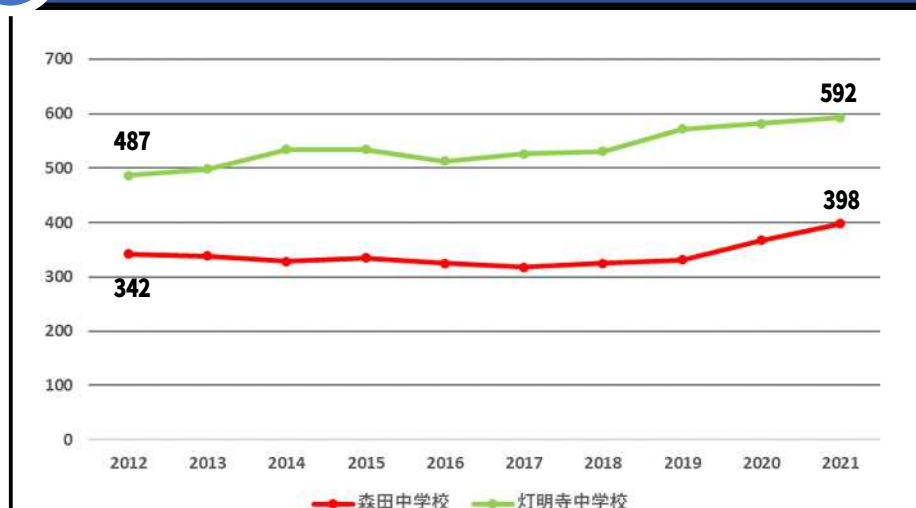
1 小学校区別人口の推移



2 小学校児童数の推移

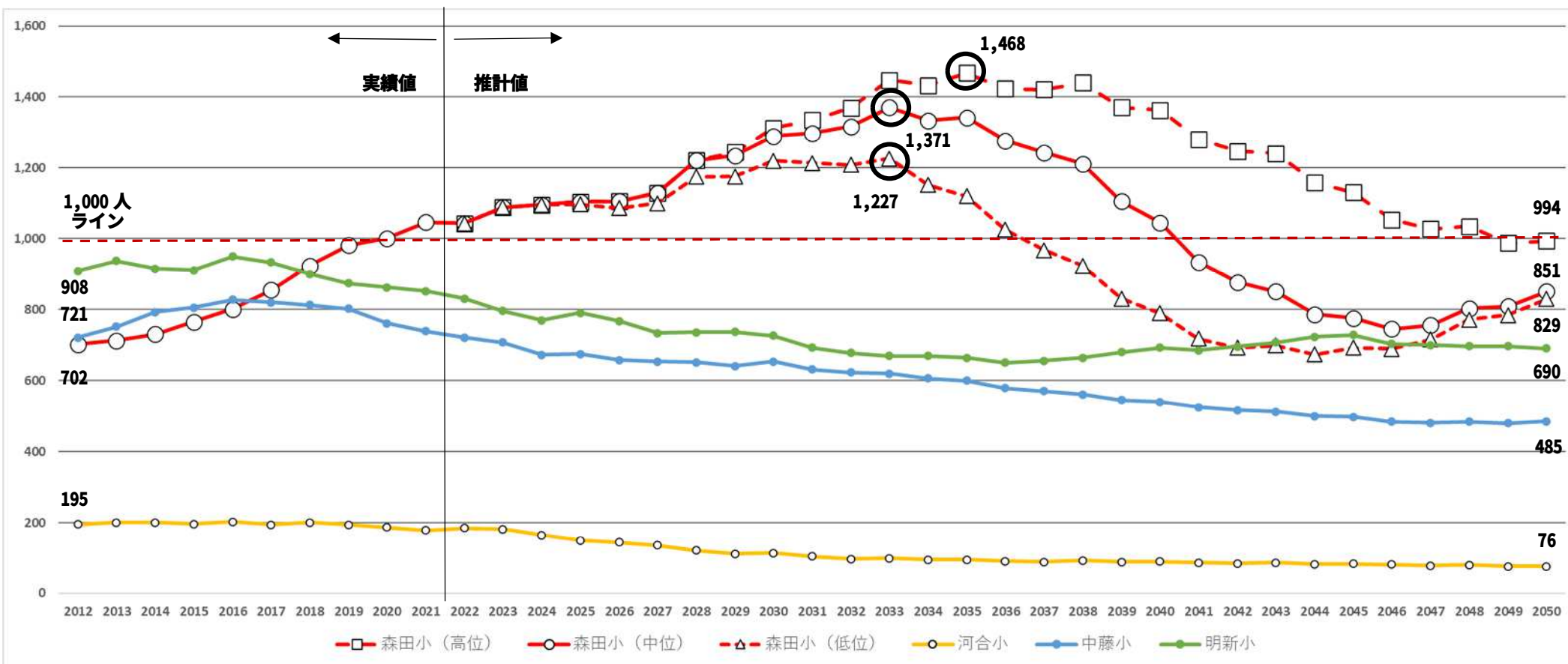


3 中学校生徒数の推移



2. 将来の児童・生徒数の予測 <コホート変化率法>

1 各小学校区の児童数の予測



- ・森田小（高位）のピークは、2035 年に 1,468 人。
- ・森田小（中位）のピークは、2033 年に 1,371 人。
- ・森田小（低位）のピークは、2033 年に 1,227 人。
- その後、減少傾向だが 2050 年前後から再び増加傾向となる。
- ・河合小は、約半数程度まで減少傾向。
- ・明新小、中藤小も減少傾向。ただし、明新小は 2040 年前後から再び増加傾向となる。

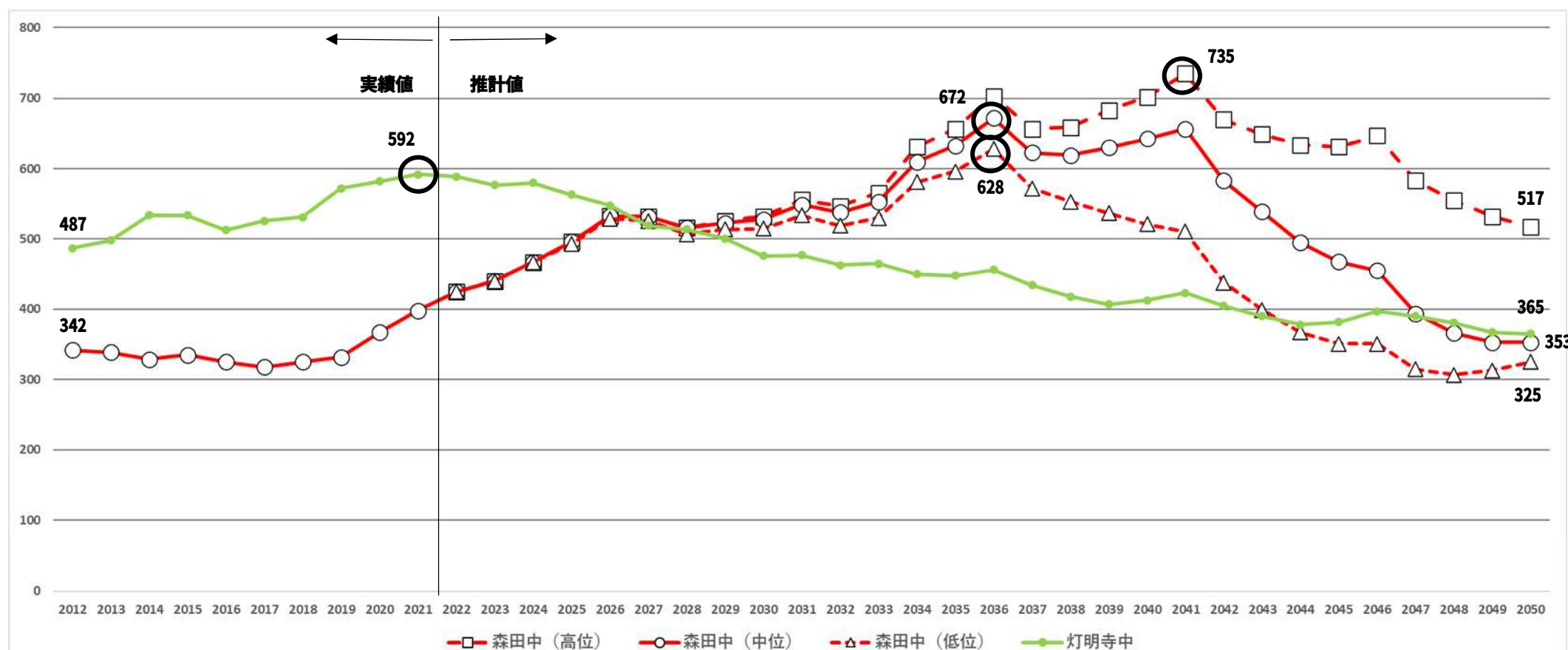
※明新地区の農地の残存率を参考とし、

農地残存率 3.5% = 「高位推計」

農地残存率 7.0% = 「中位推計」

農地残存率 10.0% = 「低位推計」 とする。

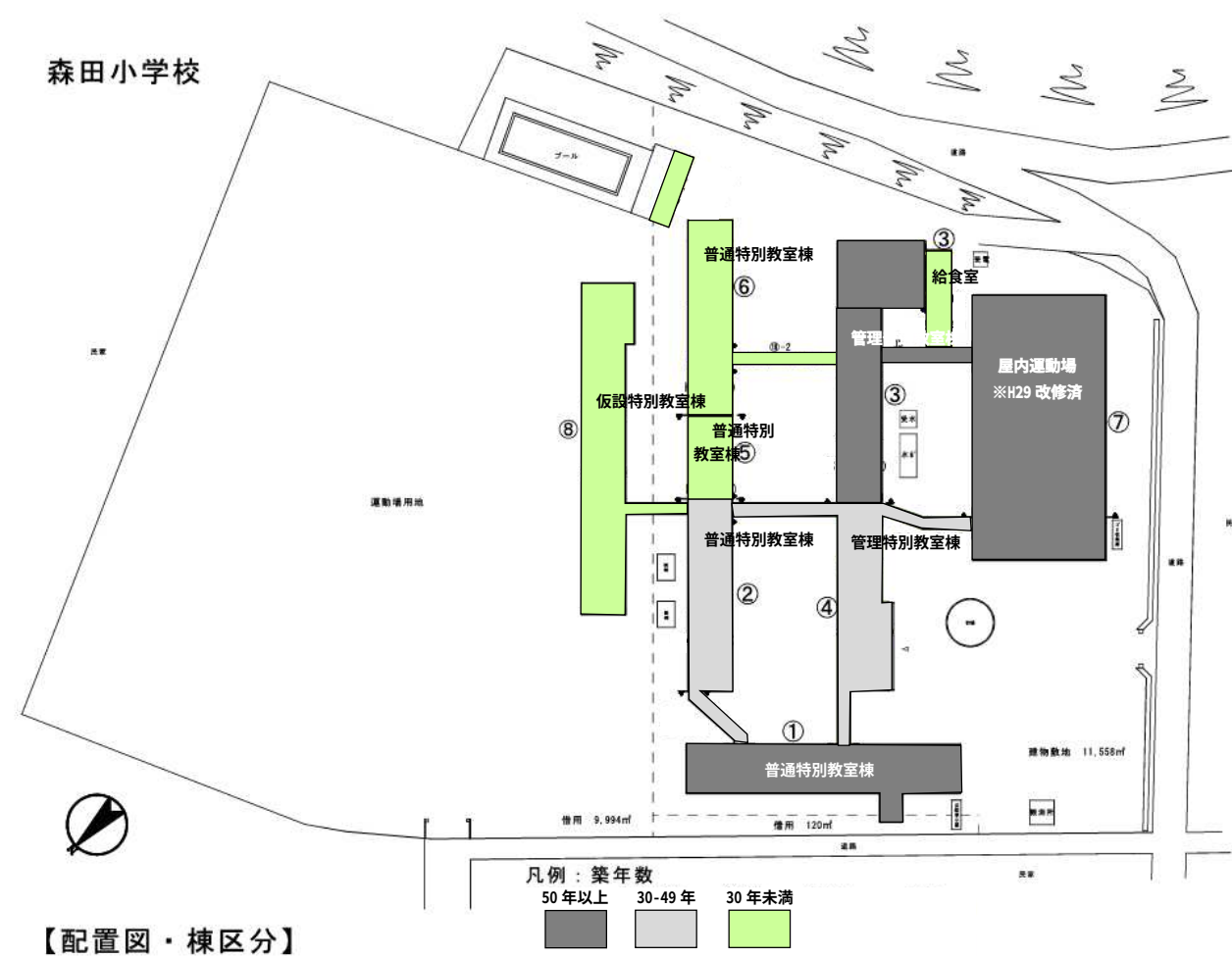
2 各中学校の生徒数の予測



- ・森田中（高位）のピークは、2041 年に 735 人。
- ・森田中（中位）のピークは、2036 年に 672 人。
- ・森田中（低位）のピークは、2036 年に 628 人。
- その後、減少傾向だが小学校児童数の推移を踏まえ、2060 年前後に再び増加傾向となる。
- ・灯明寺中のピークは、2021 年に 592 人。
- その後、減少傾向となる。

3. 各学校施設の概要

1 森田小学校



【施設概要】

施設番号	建物名	構造-階数	延床面積	建築年度	築年数	改修の必要性
①	普通特別教室棟	RC-3	1,854	1962	59	有
②	普通特別教室棟	RC-3	1,014	1972	49	有
	渡廊下	S-1	38			
③	管理普通教室棟	RC-3	1,475	1969	52	有
	渡廊下	RC-1	43			
	給食室	S-1	118	2017	4	
④	管理特別教室棟	RC-3	957	1986	35	有
	渡廊下	S-1	47			
⑤	普通特別教室棟	RC-3	504	1995	26	
⑥	普通特別教室棟	RC-3	1,101	2017	4	
	渡廊下	RC-3	150			
⑦	室内運動場	RC-2	1,868	1964	57	
⑧	仮設特別教室棟	K-2	1,365	2021	0	
合計			10,534			

【児童数内訳】

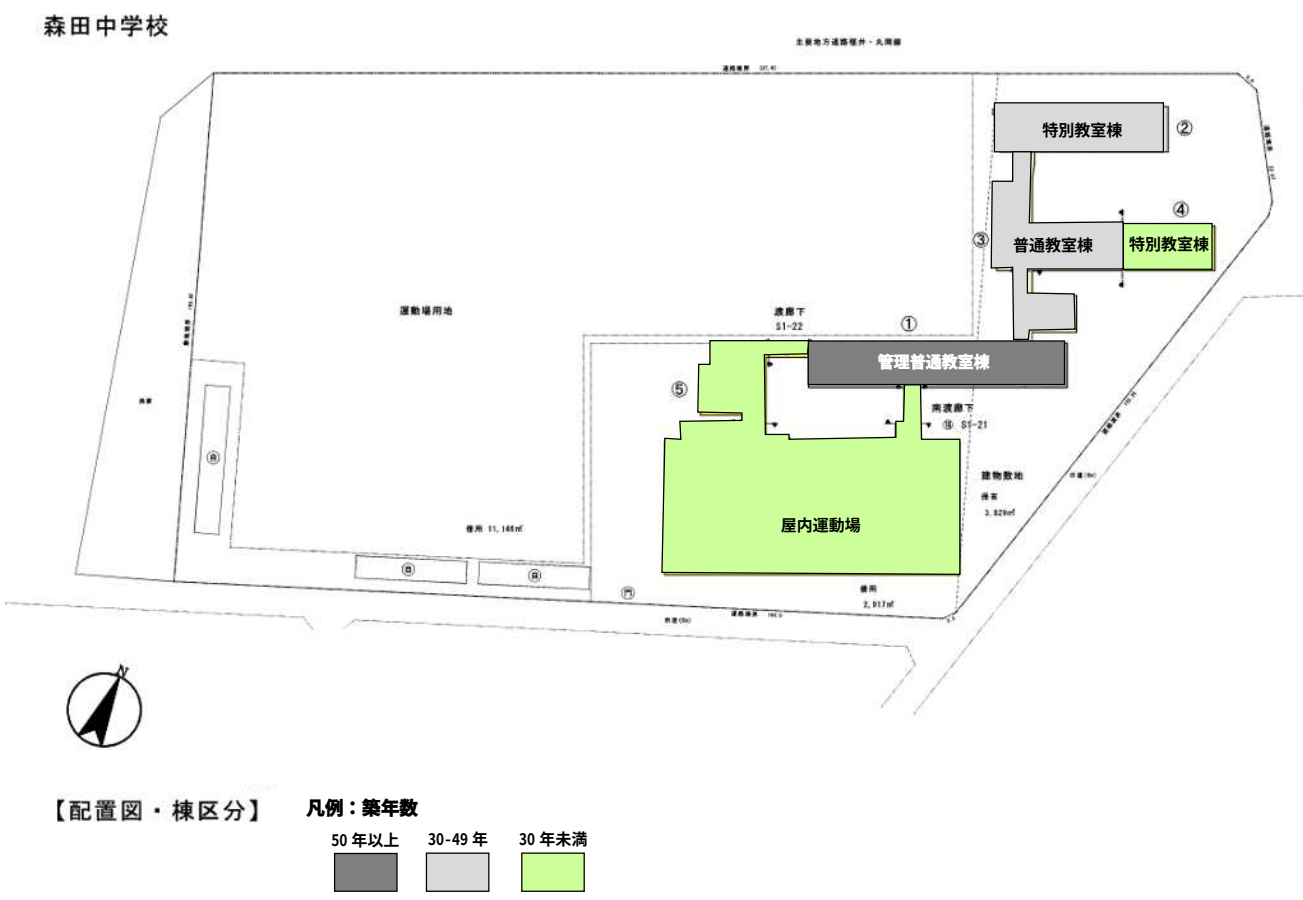
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	支援	計
児童数	185	177	188	173	164	148	14	1,049
学級数	6	6	6	5	5	5	3	36

【教室数内訳】

<校舎>		<仮設校舎>	
普通教室	33	普通教室	0
特別教室	8	特別教室	2
支援学級	2	支援学級	0
余裕教室	1	余裕教室	1

- 児童数の増加により普通教室が不足したため、仮設校舎を設置（R3）。
- 特別教室及び児童クラブを仮設校舎に移すことで、校舎内に各学年6学級分の普通教室（1,260人分）を確保。

2 森田中学校



【施設概要】

施設番号	建物名	構造-階数	延床面積	建築年度	築年数	改修の必要性
①	管理普通教室棟	RC-3	1,294	1968	53	有
		S-1	59			
②	特別教室棟	RC-4	1,292	1975	46	有
③	普通教室棟	RC-3	959	1982	39	有
	東渡廊下	RC-3	204	1982	39	有
④	特別教室棟	RC-3	451	1995	26	
⑤	屋内運動場	RC-2	2,087			
	渡廊下	S-1	22	2011	10	
	南渡廊下	S-1	21			
	昇降口	RC-1	191	2011	10	
合計			6,580			

【生徒数内訳】

	1年生	2年生	3年生	支援	計
生徒数	136	137	114	11	398
学級数	4	4	4	2	14

【教室数内訳】

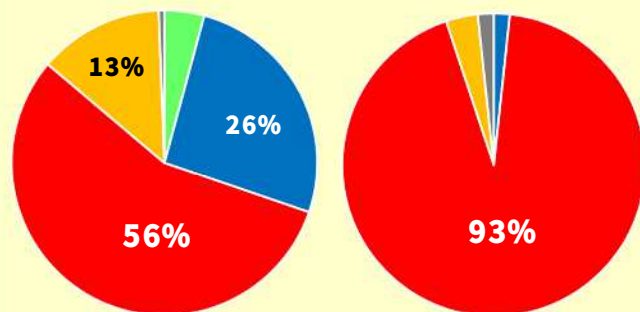
<令和3年度>		<令和4年度>	
普通教室	12	普通教室	15
特別教室	11	特別教室	10
支援学級	1	支援学級	1
余裕教室	2	余裕教室	0

- 1学級あたりの生徒数が32人を超えており（1・2年生）、普通教室が不足。
- 今年度に余裕教室と特別教室等を改修し、令和4年度以降は、各学年5学級分の普通教室（480人分）を確保。

4. 学校規模適正化の現状の整理

1 規模適正化検討委員会で実施したアンケート結果（R2.1）

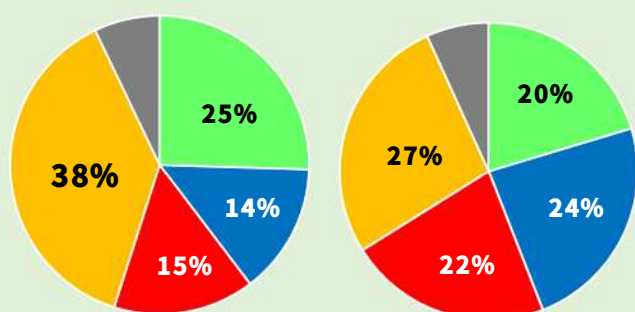
＜森田小学校の児童数について＞



【保護者】

【学校関係者】

＜森田中学校の児童数について＞



【保護者】

【学校関係者】

回答数）保護者：836 件 学校関係者：59 件

凡例） ■：ちょうどよい ■：多いが望ましい ■：多すぎて望ましくない ■：分からない ■：無回答

- ・森田小学校については、現在の児童数が多いことから、学校関係者を中心に「多すぎて望ましくない」という回答が多かった。
- ・自由記述の中で、小学校の児童数増加への対応として、2校に分けるといった意見が多かった。その他には、増築、隣接校との校区変更という意見もあった。
- ・森田中学校については、現在の生徒数はまだ多くないことから、保護者、学校関係者とも「多すぎて望ましくない」という回答は3分の1以下であった。

2 福井市学校規模適正化意見交換会の結果概要

	参加者数	おもな意見等
森田 (R2.10.23)	保護者 52 名 地区住民等 13 名 地区外 5 名	・規模適正化に向けた市の動き出しが遅い ・速やかな中学校の新設及び小学校の2校化 ・中学校が新設される場所への懸念 ・通学路の安全確保 ・小学校2校化までの暫定的な校区変更
河合 (R2.11.20)	保護者 16 名 地区住民等 1 名 地区外 2 名	・H30の要望を受けてからの市の取組内容 ・速やかな中学校の新設 ・中学校の位置については森田・河合両地区からバランスの取れた場所を希望 ・兄弟姉妹で異なる中学校へ通学する際の配慮

5. 森田小学校・森田中学校の課題整理と具体的方策について

1 森田小学校の現状

<施設>

- ・仮設校舎を建設したことで、各学年6学級分の普通教室（1,260人分）を確保。
 - ・体育館や特別教室など共有エリアの不足（授業カリキュラムに支障）
 - ・児童と面談・相談できるようなスペースの不足
 - ・教職員数に見合った職員室スペースの不足
 - ・駐車場の不足（教職員及び来校者）
- 敷地を含めたハード面での不足箇所が見受けられる。

<児童数>

- ・令和3年度の全児童数が1,049人。
 - ・2035年に1,468人まで増加する可能性がある。
- 答申において示された適正規模である1,000人を超えている。

答申の提言内容に基づき、森田小学校の2校への分割を検討する必要がある。

2 森田中学校の現状

<施設>

- ・特別教室等を改修し、各学年5学級分の普通教室（480人）を確保予定。
- ・敷地が狭く、グラウンド敷地を利用しなければ、校舎の増築は困難。
- ・今後、現在森田小学校で見受けられているハード面の課題が想定される。

<生徒数>

- ・令和3年度の全生徒数が398人。
- ・令和7年度に生徒数が500人を超える見込みであり、さらに普通教室が不足する。
- ・2041年に735人まで増加する可能性がある。

森田中学校の整備方針を検討する必要がある。

1-1 森田小学校で想定される具体的方策

具体的方策	実現の可否
①既存の敷地内での増築	可能性低い
②既存の敷地内での改築	(児童数が1,000人を超えているため)
③校区(学区)の変更	可能性低い (河合小への校区変更は、受入児童数に限界がある) 現建物の収容人数：最大280人<想定児童最大 約560人※ ※ピークである2035時点の年河合小95人 +森田小の「1,000人」を超えた分468人
④小学校の新設	可能性あり (適当な建設地の確保が条件) ※区画整理区域内に適地はなく、地区外西部(JR北陸本線の西側)だと地理的なバランスを確保することが厳しい。
⑤現森田中を小学校へ改修	可能性あり (中学校の移転新築が条件)

2-1 森田中学校で想定される具体的方策

具体的方策	実現の可否
①既存の敷地内での増築	可能性あり (グラウンドが狭小になる可能性がある)
②既存の敷地内での改築	可能性あり (グラウンドが狭小になる可能性がある)
③校区(学区)の変更	可能性あり (校区変更による灯明寺中での受入生徒数に余裕はない) 現建物の収容人数：最大670人<想定生徒最大 約680人※ ※ピークである2041年時点の灯明寺中423人 +森田中の収容人数「480人」を超えた分255人
④移転新築	可能性あり (適当な建設地の確保が条件) ※区画整理区域内に適地はなく、地区外西部(JR北陸本線の西側)の可能性が高い。 →通学路の安全確保等の観点から河合地区の中学校区を灯明寺中から新しい中学校に変更することも可能。

※「3 森田小学校で想定される具体的方策」が「⑤現森田中を小学校へ改修」となった場合、森田中学校の具体的方策は「④移転新築」となる。